

令和6年9月19日  
福島県農林水産部  
環境保全農業課

## 野菜・花きの害虫（ハスモンヨトウ）の 注意報を發表します。

病虫害防除所（農業総合センター安全農業推進部）から下記のとおり注意報（※）を  
發表し、生産者による防除の徹底を呼びかけることとしましたのでお知らせします。

記

- 1 發表日 令和6年9月19日（木）
- 2 対象作物 野菜・花き
- 3 病虫害 ハスモンヨトウ
- 4 対象地域 全域
- 5 発生量 多い



成虫



幼虫



被害葉

※注意報 重要な病虫害の多発生が予測され、かつ、早めに防除措置を行う必要がある  
と認められる場合に發表するもの。

- ハスモンヨトウは様々な農作物を食害しますが、県内ではいちご、トマト、トルコ  
ギキョウ等の野菜・花き類に被害を与えるおそれがあります。

### 【近年の注意報發表状況】

- R 6 3回（オオタバコガ、斑点米カメムシ類、果樹カメムシ類）  
R 5 3回（モモハモグリガ、斑点米カメムシ類、ハスモンヨトウ）  
R 4 發表なし

※注意報の詳細はこちらをご覧ください。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/keihou-2024.html>

（お問い合わせ先）

福島県病虫害防除所（福島県農業総合センター安全農業推進部）

次長 菅野 英二 電話024-958-1707

# 令和6年度 病害虫発生予察情報

## 注意報 第4号

令和6年9月19日  
発表：福島県病害虫防除所

ハスモンヨトウの誘殺数が急増しています！  
特に施設栽培では侵入防止と早期防除を徹底しましょう！

- 1 対象作物：野菜類・花き類
- 2 病害虫：ハスモンヨトウ
- 3 対象地域：全域
- 4 発生量：多い

### [予報の根拠]

浜通り地方に設置しているフェロモントラップでの誘殺数は、8月6半旬の相馬市で平年の21倍、9月1半旬のいわき市で6倍と急増しています。(図1、2)。また、中通り地方、会津地方においても誘殺数が急増しています(図3、4)。イチゴ苗でも発生を確認しており、今後、被害拡大が懸念されています。

### [生理生態]

- 1 本種は広食性で、多くの農作物を加害します(写真1)。特に被害が懸念される施設園芸品目としては、イチゴ、トマト、トルコギキョウなどです。
- 2 本種は卵塊で産卵し、若齢幼虫は集団で葉肉を食害するため、表皮のみを残し、葉が白くなります(写真2、3)。

### [防除対策]

今後、更に発生が増加するおそれがあります。また、本種は休眠性がないことから、温度が保たれる園芸施設内に侵入すると冬期間も加害します。

- 1 幼虫の齢期が進むと薬剤が効きにくくなるため、若齢期のうちに薬剤散布をしてください(写真4)。
- 2 葉裏や株元など薬剤のかかりにくい部位にも寄生するので、薬剤は丁寧に散布してください。
- 3 薬剤抵抗性が発達するおそれがあるため、同一系統の薬剤の連用を避けてください。
- 4 施設栽培では、開口部に目合い4mm以下の防虫ネットを設置し成虫の侵入を防いでください。なお、防虫ネット上に産卵し、孵化した幼虫が施設内に侵入することがあるので注意してください。



図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺状況  
(相馬市南飯舘:イチゴ)  
注) 平均2012~2019年は相馬市和田

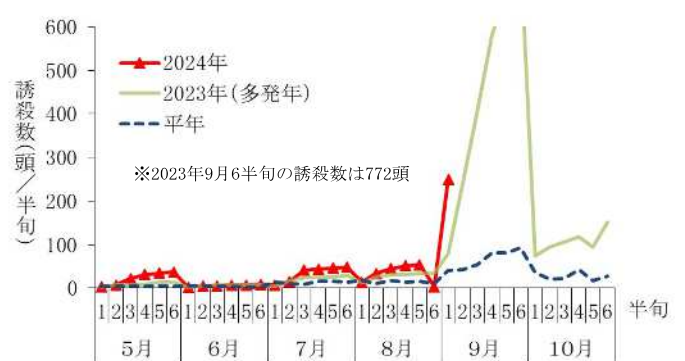


図2 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺状況  
(いわき市平菅波:イチゴ)  
注) 平均2014~2017年はいわき市下大越  
※2023年9月6半旬の誘殺数は772頭



図3 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺状況  
(棚倉町:イチゴ)



図4 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺状況  
(会津若松市北会津:イチゴ)



写真1 ハスモンヨトウ終齢幼虫



写真2 トルコギキョウの被害葉



写真3 イチゴの被害葉(白変葉)



写真4 孵化直後の若齢幼虫(イチゴ)

●情報内容への質問や要望は、福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課(病害虫防除所)まで御連絡ください。

TEL 024-958-1709 FAX 024-958-1727

E-mail: yosatsu@pref.fukushima.lg.jp